

鉄砲祭り

小鹿野町 飯田
八幡神社例大祭

埼玉県指定無形民俗文化財

12月第二日曜日とその前日

まるで戦国絵巻の様な豪壮さ



十二月第二日曜日とその前日、秩父路の祭曆を締めくくつかのように、鉄砲まつりは勇壮にそして賑やかに催される。古くは秋の収穫を祝う霜月祭りで、旧暦の十月十五日に行われていた。

「鉄砲まつり」と呼ばれる所以は江戸時代、火縄銃の頃に遡る。豊猟祈願や猟師の試し撃ちが起こりともいわれるが、起源は明らかではない。大名行列は、元文年間(一七四〇頃)当時の上飯田領主・旗本古田大膳が行列を任立て、参拝したのが起源と伝えられている。

祭り 一日目

午後 祭りは役人の氏子の宮

参り、そして笠鉾・屋台の上飯田地区内曳き廻して始まる。祭りの安全を祈って奉納される三番叟、屋台に芸座・花道を組み、上飯田の若衆によつて上演される歌舞伎など、様々な伝統色で彩られる。

祭り 二日目

午前から祭典が行われ、境内の神楽殿では終日、神楽が奉納される。十時過ぎ、神社石段下に曳き付けられた屋台上で三番叟・歌舞伎が奉納される。この頃になると神社周辺は大勢の参拝客でふくれあがる。

夕刻、十萬石の格式と二百七十余年の歴史を誇る大名行列が独特の所作で参道を進み、祭



りの興奮は徐々に高まってくる。参道の両側には、猟銃を携えたハンターや火縄銃保存会の人達。
—— 異様な静寂を突き破り、空に向けて一斉に放たれる銃火の中を、二頭の神馬がそれぞれ参道から社殿までの急な石段を二気に駆け登る——。
轟音と硝煙に包まれて「お立ち」の神事は秩父路大祭のフィナーレを飾る。
お立ちの余韻の中、神輿渡御・神幸祭(川瀬神事)が厳肅に執り行われる。夜になると再び歌舞伎が奉納され、拍手喝采の終演とともに冬の夜空に打ち上げ花火が華やかな彩りを添え、祭りが締めくくられる。